3

柏市の概要

柏市の概要

1 沿革

柏市は北総台地の中央に位置し、東京都心から30km 圏内の、利根川と手賀沼に接した都市である。

この地方の集落の発生は、市内に分布する遺跡から、旧石器時代の紀元前 3 万年から 1 万年頃までさかのぼりを確認することができる。

その後縄文、弥生、古墳時代へと移行する各遺跡も近辺に無数に点在することから、「柏」は古代人にとってまことに暮らしやすい風土であったことがうかがわれる。

大化元年（645 年）、「柏」の属する下総国府が、東葛郡国府台（市川市）に置かれた。この下総国に先達が住み、政治的にも経済的にもかなり整備されていたことが『続日本記』その他の史書により知ることができる。

その間、平将門に関する多くの伝説も残り、根戸城、増尾城、戸張城はじめ多くの城址を現在に伝えている。また、近世以前に確認された地名は、布施、篠籠田、酒井根、船戸、増尾、高田、藤心、名戸ヶ谷、逆井、戸張などである。

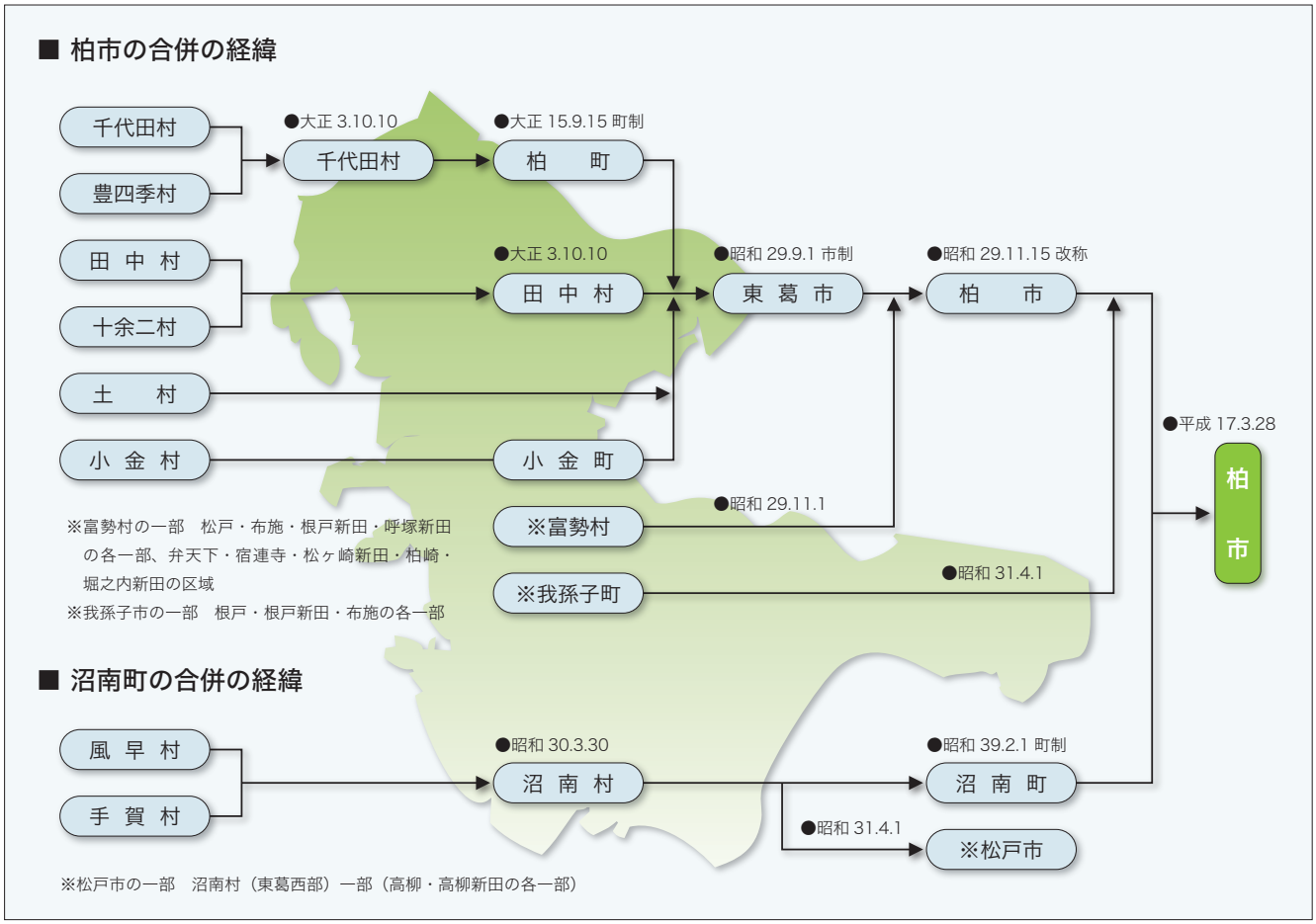
徳川時代には、市域に約 30 の「村」が存在したが、支配は天領、大名領、旗本領と非常に錯そうしていた。その中では、大名本多氏の領地が比較的まとまりを持っていた。

幕府が廃止され明治となり、明治 6 年、木更津、印旛両県を統合し千葉県となった。

明治 2 年、「失業武士」の開墾事業で、豊四季、十余二などの村落が誕生した。

明治 22 年、村が統合され、千代田村、田中村、富勢村、土村、豊四季村、十余二村が誕生した。

明治 29 年 9 月、日本鉄道土浦線が敷設され、柏駅が開業した。現在の JR 常磐線である。これにより「柏」の飛躍的発展が始まり、現在の礎ができること



になった。明治 44 年野田線、大正 12 年船橋線の両線も開通、柏は鉄道の交差点となり、北総の交通要衝の地となった。

大正 13 年、県立東葛飾中学校が千代田村に設立され、大正 15 年千代田村は町制を施行、「柏町」となり、東葛飾地区における教育、産業の中心地としての発展が始まった。

第二次大戦中は、高射砲連隊、飛行戦隊、航空教育隊、航空分廠、憲兵分遣隊と飛行場、陸軍病院が設置され、また、日本光学、日立製作所、東京機器等の工場も建設され、陸空の帝都防衛の基地と軍需工場地帯となった。

戦後になると、首都東京の近郊都市として、また、通勤者の住宅地帯、蔬菜園芸地帯として注目され、昭和 24 年、常磐線電化、昭和 28 年、常磐線南柏駅開設により、柏の発展は次第に進んできた。

昭和 29 年、柏町、小金町、田中村、土村の 4 町村は町村合併促進法に基づいて合併し、「東葛市」として市制を施行。その後、旧小金町の大半を分離、富勢村の一部を合併し「柏市」と改称した。

平成 17 年 3 月には、市町村の合併の特例に関する法律に基づき、沼南町と合併し、新市「柏市」が誕生した。

平成 20 年 4 月、柏市は中核市の指定を受け、千葉県北西部、東葛飾地域の中核都市として新たな歩みを始めている。

2 位置と地形

(1) 概況

柏市は、千葉県の北西部に位置し、利根川を境に茨城県と接し、隣接の野田市、流山市、我孫子市、松戸市、鎌ヶ谷市、白井市、印西市のほか周辺の市川市、船橋市などを加えた、東葛飾地域のほぼ中心にある。市域 114.74km^2 はほとんど平坦で、利根川、手賀沼及び手賀沼に流入する小河川の流域は、水田・畑として利用されている。

東京から柏市を経由して水戸方面に向かう国道 6 号、千葉から柏市を経由して埼玉方面に向かう国道 16 号、鉄道では JR 常磐線、東武アーバンパークライン、つくばエクスプレスがある。このほか、首都高速道路 6 号三郷線と三郷インターチェンジで接続し、福島県いわき市とを結ぶ常磐自動車道が、市内で国道 16 号とのインターチェンジを設け、市北部を通過している。

(2) 位置と地形

①	位置	極東	東経 140°6'43" （柏市布瀬新田地先）
		極西	東経 139°54'47" （柏市西原一丁目地先）
		極南	北緯 35°46'53" （柏市藤ヶ谷地先）
		極北	北緯 35°56'09" （柏市船戸山高野字江川地先）
②	標高	最高	約 30.9m（柏市南増尾周辺）
		最低	約　0.1m（柏市水道橋周辺）
③	面積	114.74km^2	

3 人口（住民基本台帳人口：平成 28 年 3 月 31 日現在）

柏市の人口	410,033 人
世帯数	179,764 世帯
高齢化率	24.57%